

しょうがくぶだより



HP QR

生活単元学習ってどんな学習??

No.7

今回は、小学部高学年より取り組んでいる生活単元学習について御紹介します。

生活単元学習とは、児童生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的に経験することによって、自立的な生活に必要な事柄を実際の・総合的に学習する指導形態のことを示します。

低・中学年で培った、意欲的に活動に参加できる力や興味関心を広げていこうとする力等を土台に、自ら協力したり、役割をもって活動したりする力の育成を目指しています。

小学部の生活単元学習では、生活科(知的障害特別支援学校)の内容を中心に据えながらも、国語や算数等の各教科の内容も取り扱っています。学習の中では、楽しめる活動や体験的な学習を取り入れながら、「校外学習を楽しむために、どんな準備がいるだろう?」や「やまぶき祭を成功させるために何が必要だろう?」等、生活的な目標と学習課題を関連させて取り組んでいます。

学習の様子 紹介



5年生 9月 単元名「防災を学ぼう」

「防災を学ぼう」では、地震や火災等の災害に関心を持ち、いざという時に備えて、身を守るために必要な事柄について、学ぶことをねらいに取り組みました。京田辺市消防本部に出向き消防署見学やインタビューを行ったり、防災食の試食や火災時を想定したスモーク体験も実施したりと様々な体験をとおして学びを深めました。学習の最後には、「防災スタンダード」を作成し、小学部のみんなを招待して、体験をとおして学んだことを新聞や動画にまとめて発表しました。



6年生 9月 単元名「やまぶき5.0へようこそ」

「やまぶき5.0へようこそ」では、情報機器に触れたり、扱ったりする活動をとおして、より豊かに充実した生活につなげることをねらいに取り組みました。今年度は京都府教育委員会の事業「子どもの知的好奇心をくすぐる体験授業」に申し込み、京都大学から講師を招いてプログラミングについての学習をしました。「クムクム」というプログラミングロボットに、講師が事前に準備したコードを入力して腕や足を動かしたり、自分でコードを入力して挨拶や自分の名前を呼んでもらったりする等、「自分で操作したい」「もっとやりたい」と主体的に取り組む子ども達の姿が印象的でした。他にも、これまでの学習を活かし、タブレット端末を使って、保護者へ学校公開の招待状を作成しました。

